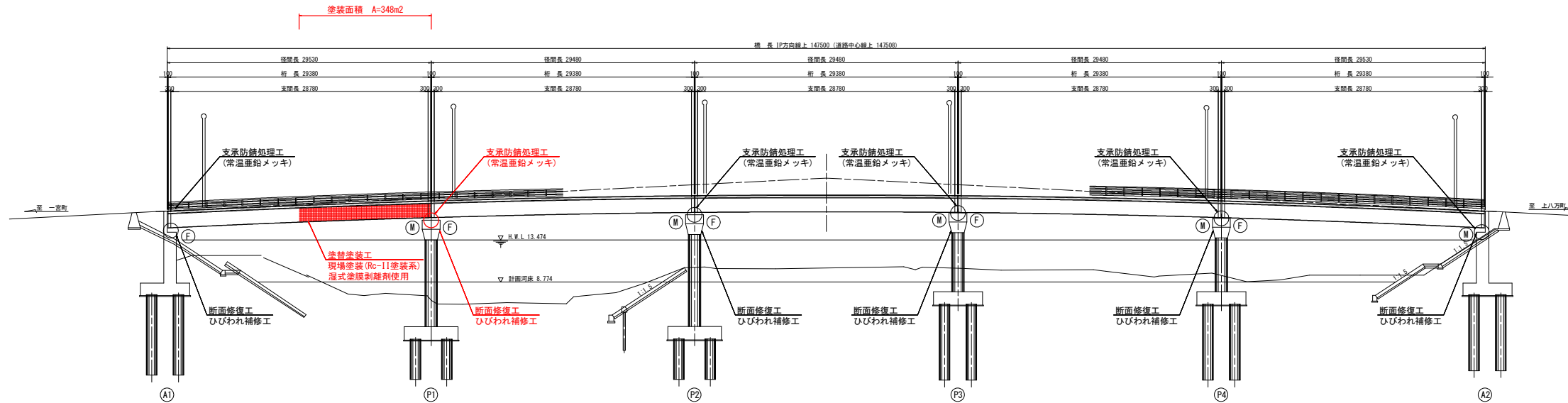
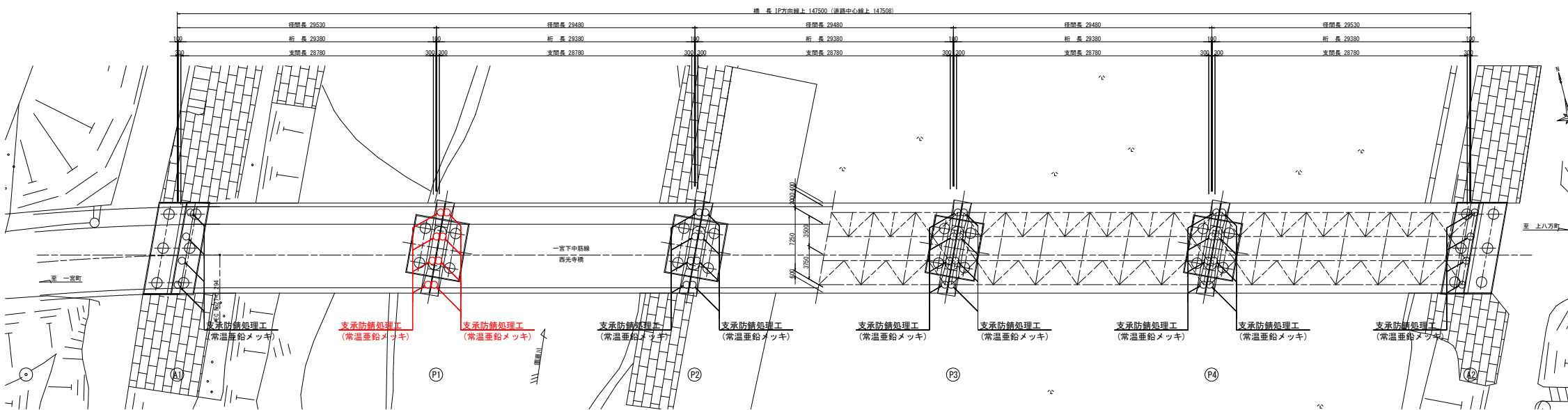


橋梁修繕計画一般図

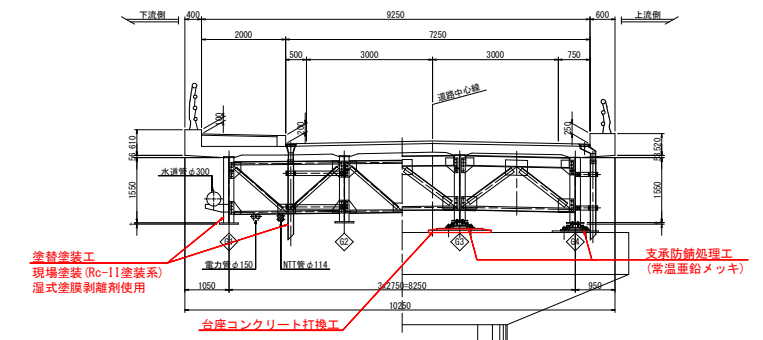
側面図 S=1:200



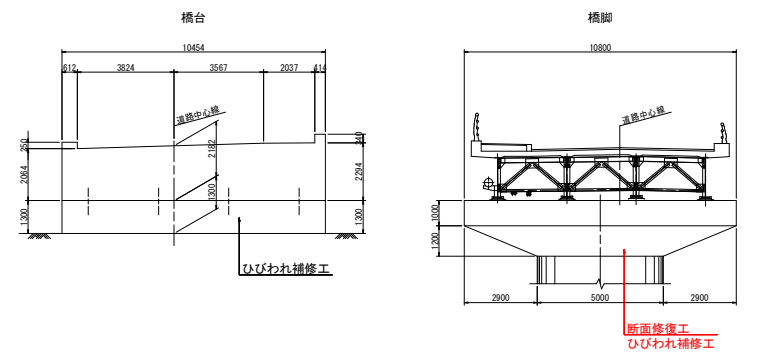
平面図 S=1:200



上部工断面図 S=1:60



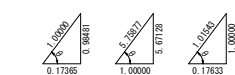
下部工正面図 S=1:100



西光寺橋 補修計画概要一覧表

工種	名称	仕様	備考
橋体工	塗装塗装工	現場塗装 Ro-11塗装系 湿式塗膜剥離剤使用	上部工鋼部材
	断面修復工	ポリマーセメントモルタル補修	
	ひびわれ補修工	可とう性エポキシ樹脂低圧注入および充填	
	支保防錆処理工	常温亜鉛メッキ	全支保対象
その他	台座コンクリート打換工	無収縮モルタル	
	仮設工	塗装用吊り足場	

斜角 (θ=80° 00')



注記: 本図面の設備機材および地物は、既得資料を基にCAD化し作成したものである。

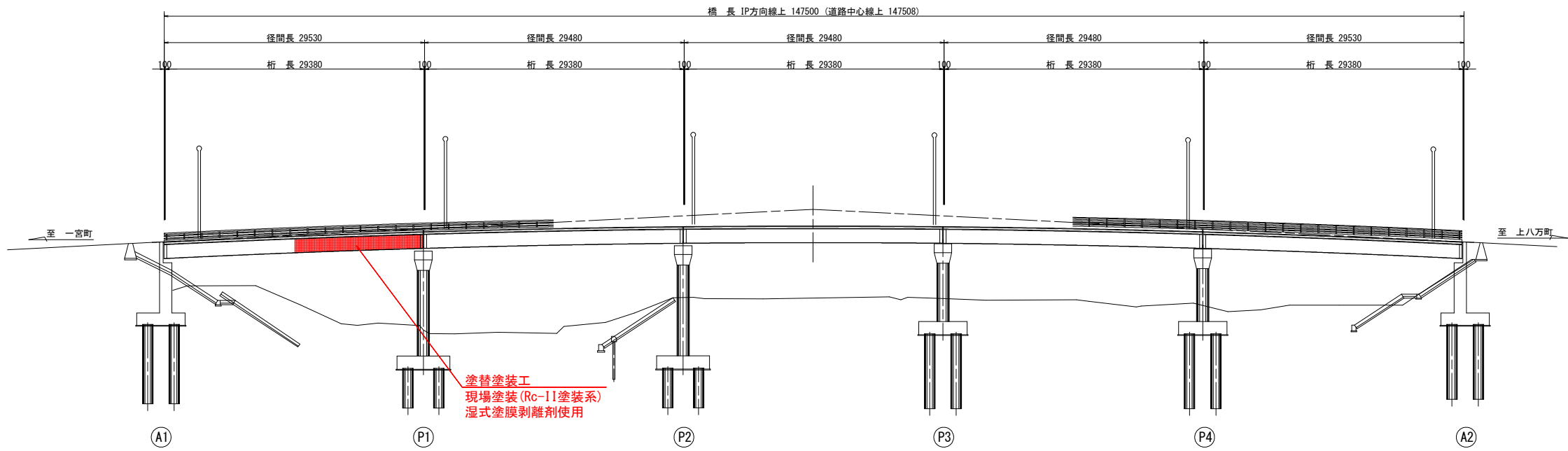
実施設計図面

工事名	JR西鉄 一宮下中筋線 橋上八万町線延伸工事 (2)
路線名等	一宮下中筋線
工事箇所	橋上八万町 (西光寺橋) (第2分割)
図面名	橋梁修繕計画一般図
縮尺	図示 図面番号 1 / 7
会社名	
事業者名	徳島県土木整備局<徳島>

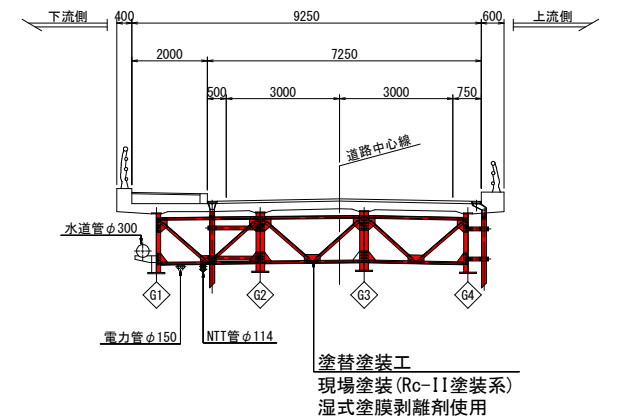
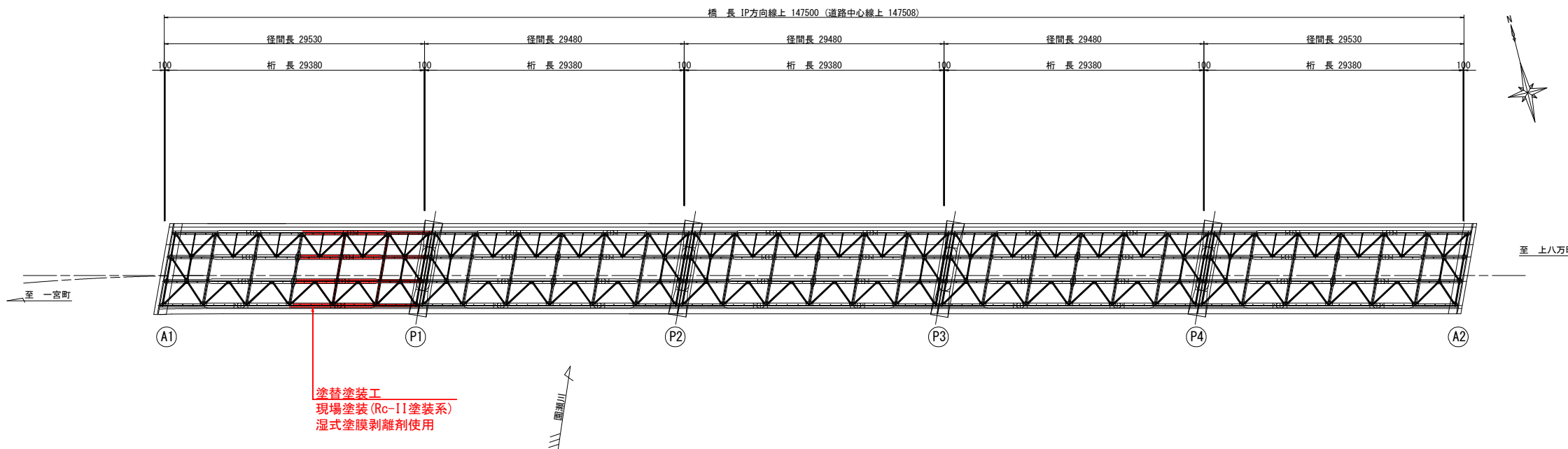
鋼桁塗替塗装工詳細図(1/2)

側面図 S=1:300

上部工断面図 S=1:100



平面図 S=1:300



塗替え塗装仕様：Rc-II塗装系（はけ、ローラー）

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	標準膜厚 (μm)	塗装間隔
素地調整	2種（湿式塗膜剥離剤使用）			4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント ※1	(240)	(30)	1日～10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	60	1日～10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	60	1日～10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	30	1日～10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	25	1日～10日

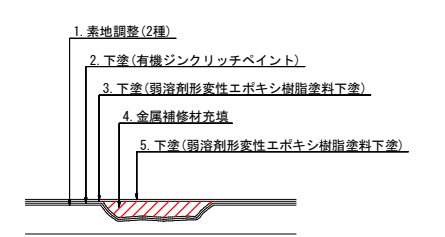
※1：素地調整程度2種であるが、健全なジンクプライマーやジンクリッチペイントを残し、ほかの旧塗膜は全面除去した場合、鋼材露出部のみ有機ジンクリッチペイントを塗布する。この際、使用量の目安は240g/m²程度とする。素地調整程度2種で旧塗膜を全面除去した場合は、有機ジンクリッチペイントの使用量が600g/m²とする。

高力ボルト連結部(外面)塗装仕様F11系

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	標準膜厚 (μm)	塗装間隔
素地調整	2種（湿式塗膜剥離剤使用）			4時間以内
ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗	160	-	1日～10日
下塗	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	1100	300	1日～10日
中塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	170	30	1日～10日
上塗	ふっ素樹脂塗料上塗	140	25	1日～10日

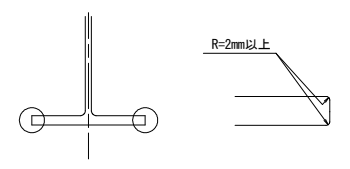
注記
1. 高力ボルト連結部は、主桁添接部を対象とし数量を計上している。
2. 上記以外で高力ボルト連結部とすることが適切と思われる箇所については、協議を行い決定のこと。

主桁断面修復工要領図(参考)
【金属補修材充填工法】

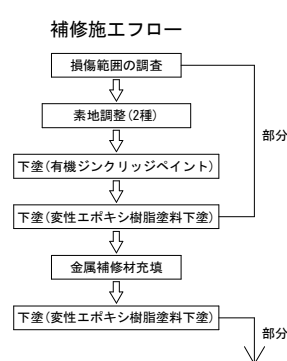


注記
1. 補修対象は、L-Flg上面の凹み深さがh=2mm以上の箇所とする。

部材の角部処理



注記
1. 塗替塗装の対象となる範囲の自由端角部は、上記に示すようにグラインダー等により曲面加工を行う。



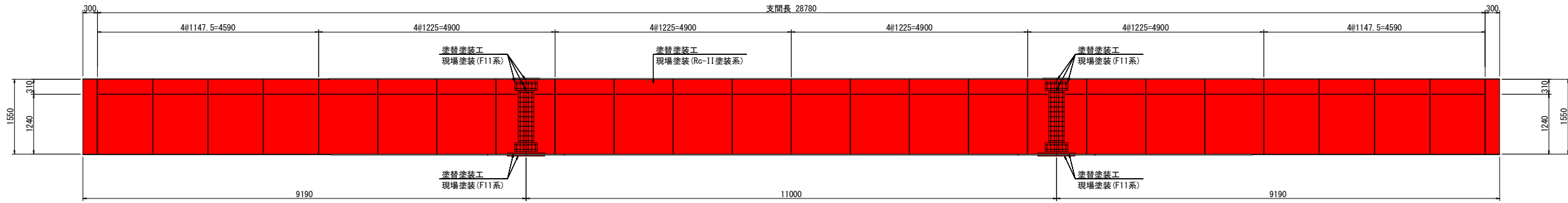
- 注記)
1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。水道管、電力管、NTT管およびそれらを支えるブラケットについては、管理者が異なるため、塗替塗装の対象外としている。
 2. 旧塗膜除去は、湿式塗膜剥離剤を使用すること。湿式塗膜剥離剤は、剥離試験を実施し適正を確認すること。
 3. 旧塗膜が湿式塗膜剥離剤で除去しきれない場合は、作業者の安全確保、周辺環境の汚染防止策を確実に講じた上でケレン作業を行うこと。
 4. 塗装前には、付着塩化物量が50mg/m²以下になっていることを確認した後、塗装を行うものとする。
 5. 腐食部の断面欠損(凹凸が著しい)が大きい場合は、素地を金属補修材で下地処理を行うものとする。
 6. 腐食が著しく進行している箇所等については、担当者と状況を確認後、対策方法を協議のこと。
 7. 塗替色は現橋を基本に考えるが、担当者に確認を行い決定のこと。
 8. 塗装工事での養生対策は十分行うこと。
 9. 関係機関協議については、担当者に確認を行い適宜対応のこと。

実施設計図面

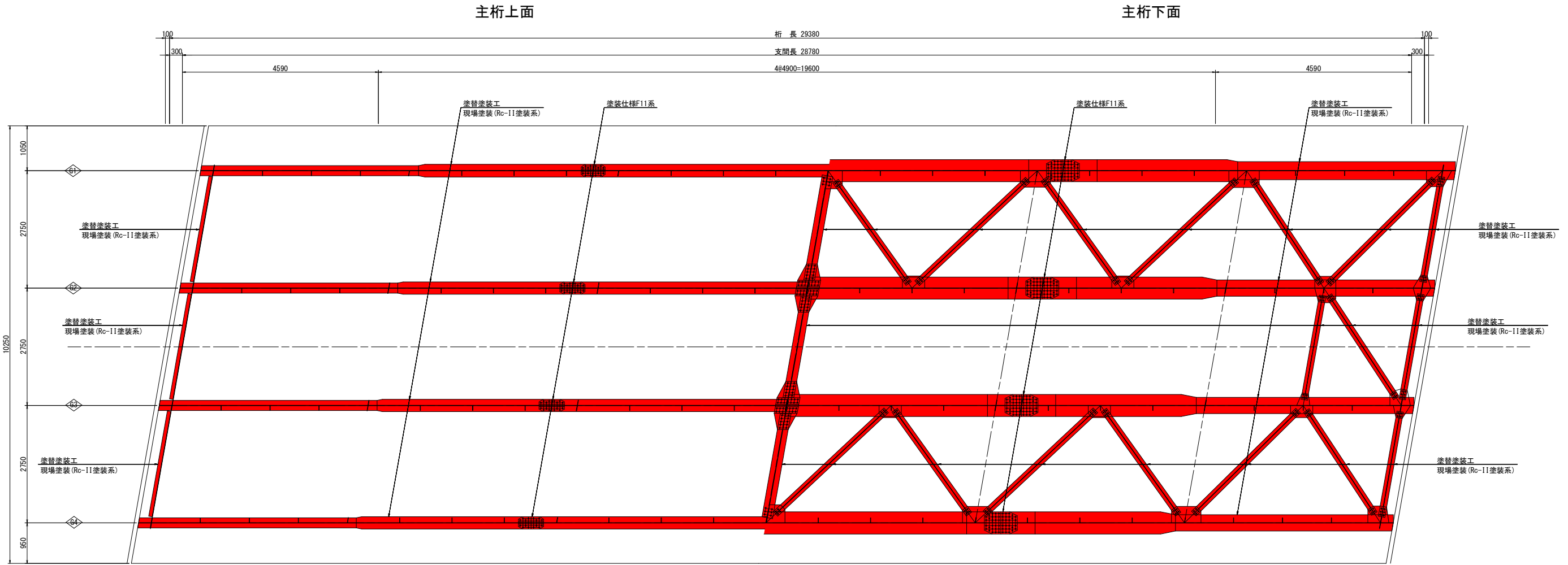
工事名	R2徳土一宮下中筋線 徳・上八万橋梁塗装工事(2)		
路線名等	一宮下中筋線		
工事箇所	徳島市上八万町(西光寺橋)(第2分割)		
図面名	鋼桁塗替塗装工詳細図(1/2)		
縮尺	図示	図面番号	2 / 7
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

鋼桁塗替塗装工詳細図(2/2)

主桁側面図 S=1:50



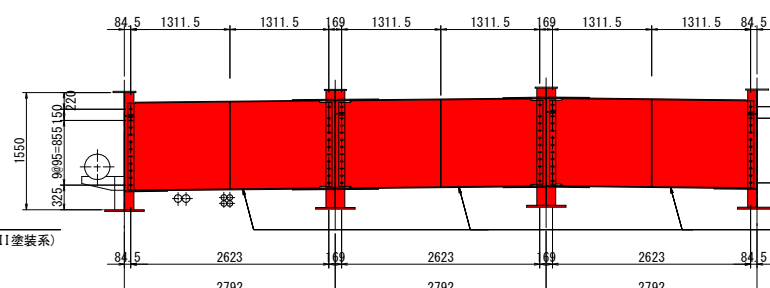
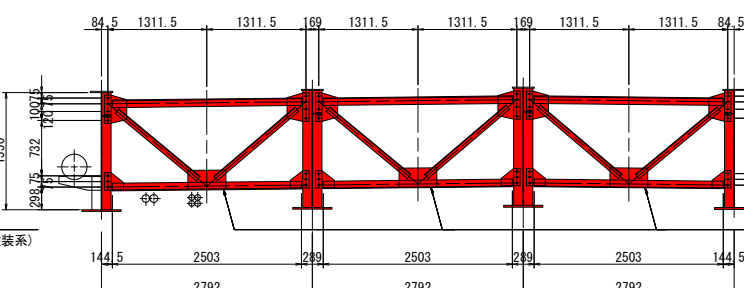
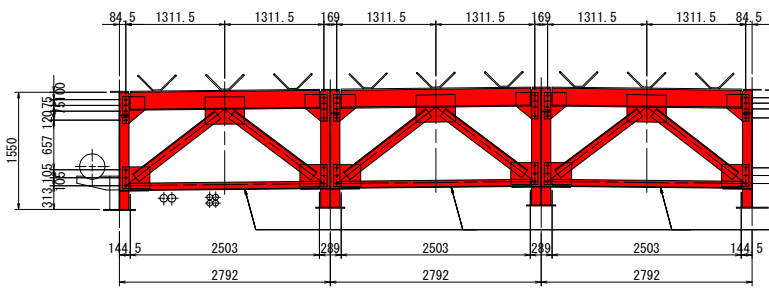
下面平面図 S=1:50



端対傾構

中間対傾構

横桁



実施設計図面

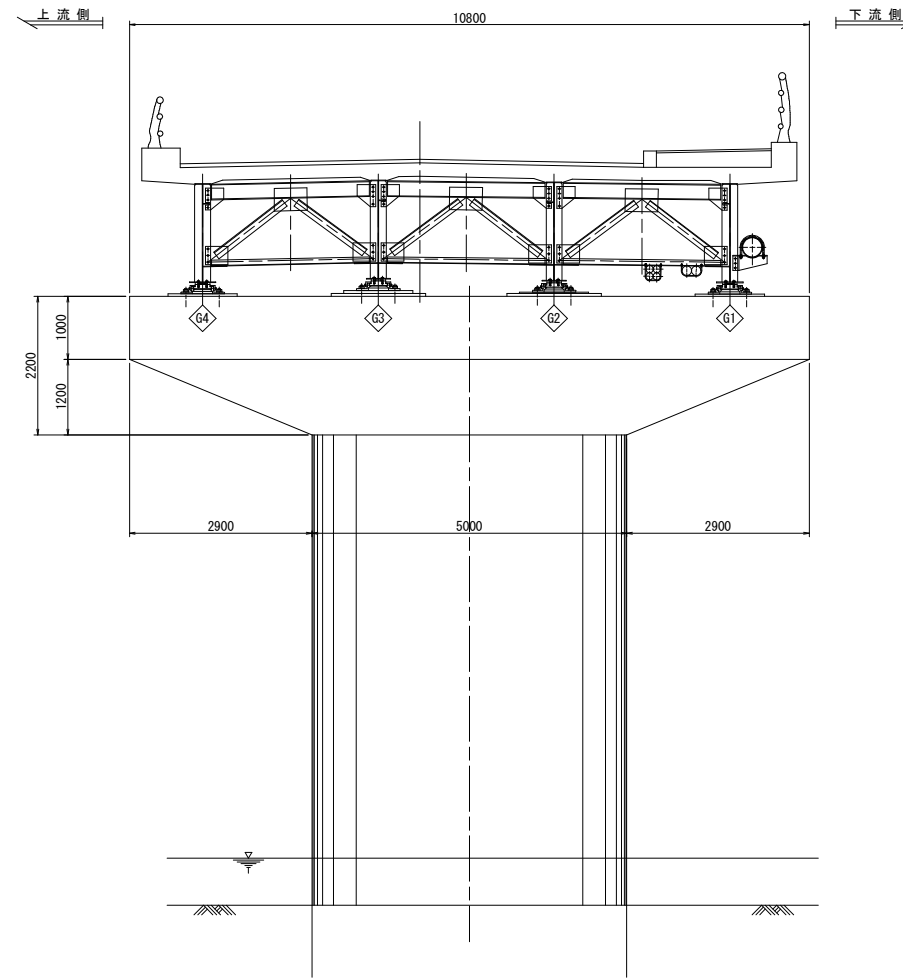
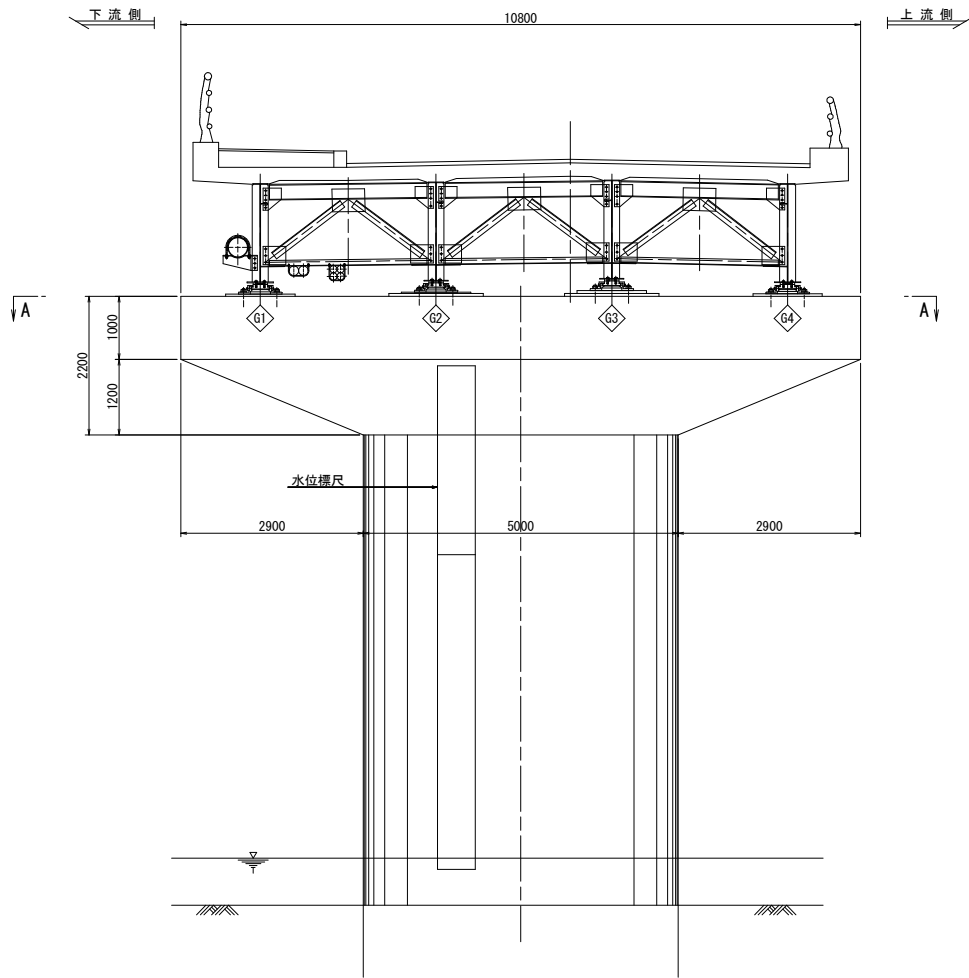
工事名	R2徳土一宮下中筋線 徳・上八万橋梁塗装工事(2)		
路線名等	一宮下中筋線		
工事箇所	徳島市上八万町(西光寺橋) (第2分割)		
図面名	鋼桁塗替塗装工詳細図(2/2)		
縮尺	図示	図面番号	3 / 7
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

下部工補修詳細図(2/8) S=1:60

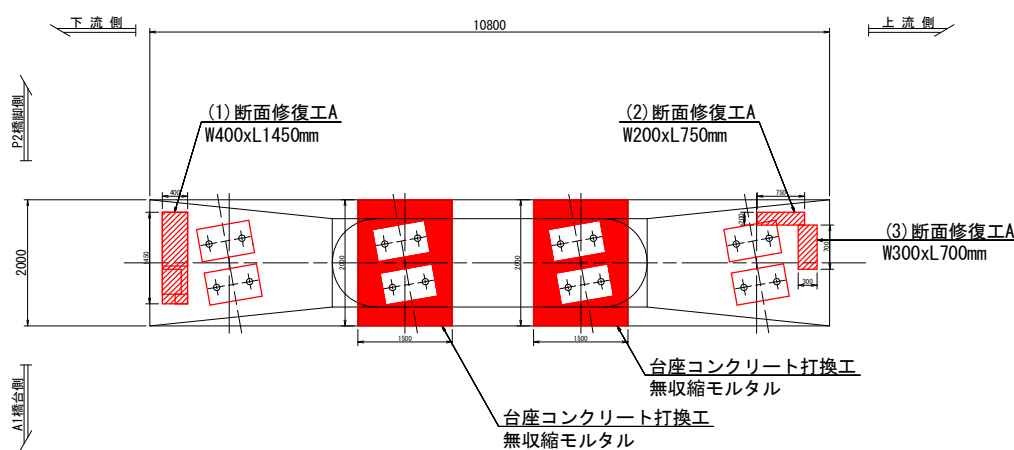
(P1橋脚)

A1橋台側正面図

P2橋脚側正面図



橋座部平面図(A-A)



断面修復工A(P1橋脚)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	0.40	1.45	0.05	0.029	桁受け部上面
(2)	0.20	0.75	0.05	0.008	"
(3)	0.30	0.70	0.05	0.011	"
合計				0.048	

注記

- 断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。
ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
- 修復厚さは、コンクリート面より鉄筋が突出しているため、鉄筋面より30mmの純かぶり厚さを確保し突出させて修復する。
(修復厚さ：鉄筋径(16mm)+30mm=50mm)
- 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
- 鉄筋構造物は鉄筋の裏側までのはつることを原則とする。
ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
- 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

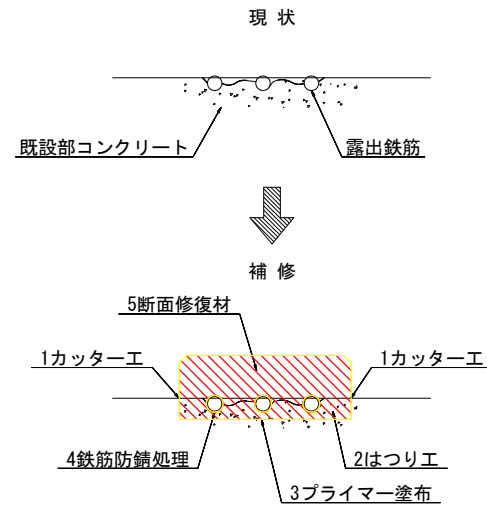
注記)
1. 台座コンクリート打換工の詳細図は、「下部工補修詳細図(3/3)」を参照のこと。

実施設計図面

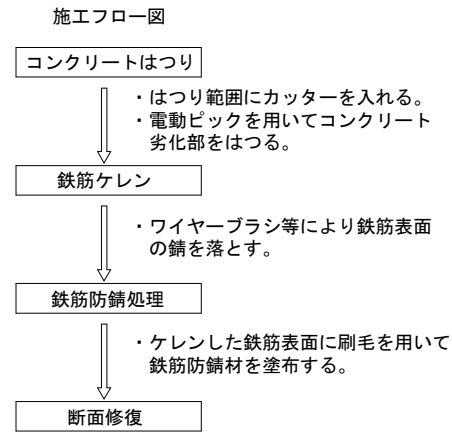
工事名	R2徳土 一宮下中筋線 徳・上八万 橋梁塗装工事(2)		
路線名等	一宮下中筋線		
工事箇所	徳島市上八万町(西光寺橋) (第2分割)		
図面名	下部工補修詳細図(1/3)		
縮尺	S=1:60	図面番号	4 / 7
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

下部工補修詳細図(2/2)

断面修復工A [左官工法]



断面修復材量Vは下式より算出する。
 $V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$
 ここに、
 V : 断面修復材量
 W : 修復幅
 L : 修復長
 t : 修復厚
 1.18 : ロス率



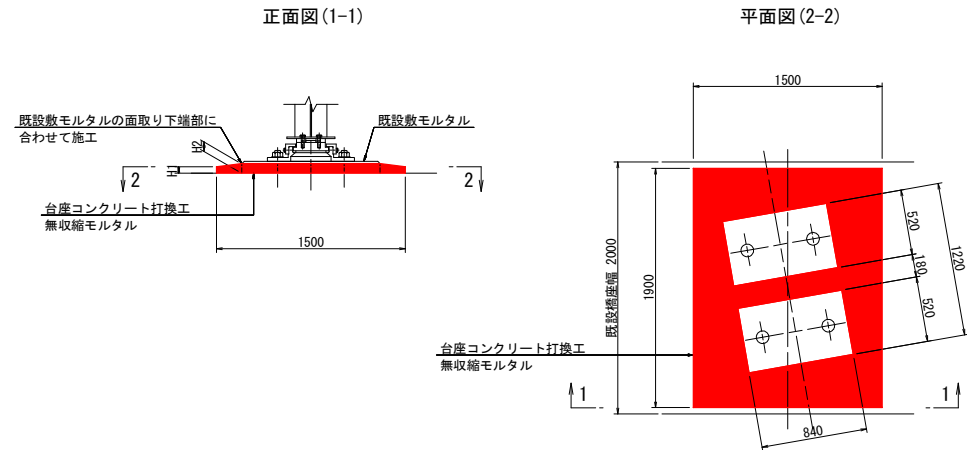
- 1) ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、純かぶり厚30mmを確保し、突出した形で整形する。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りにくいため、特に入念に埋め戻す必要がある。
- 4) 断面修復厚さは、各部材で設定している。
- 5) 上面角部は、面取りを行うこと。

実施設計図面

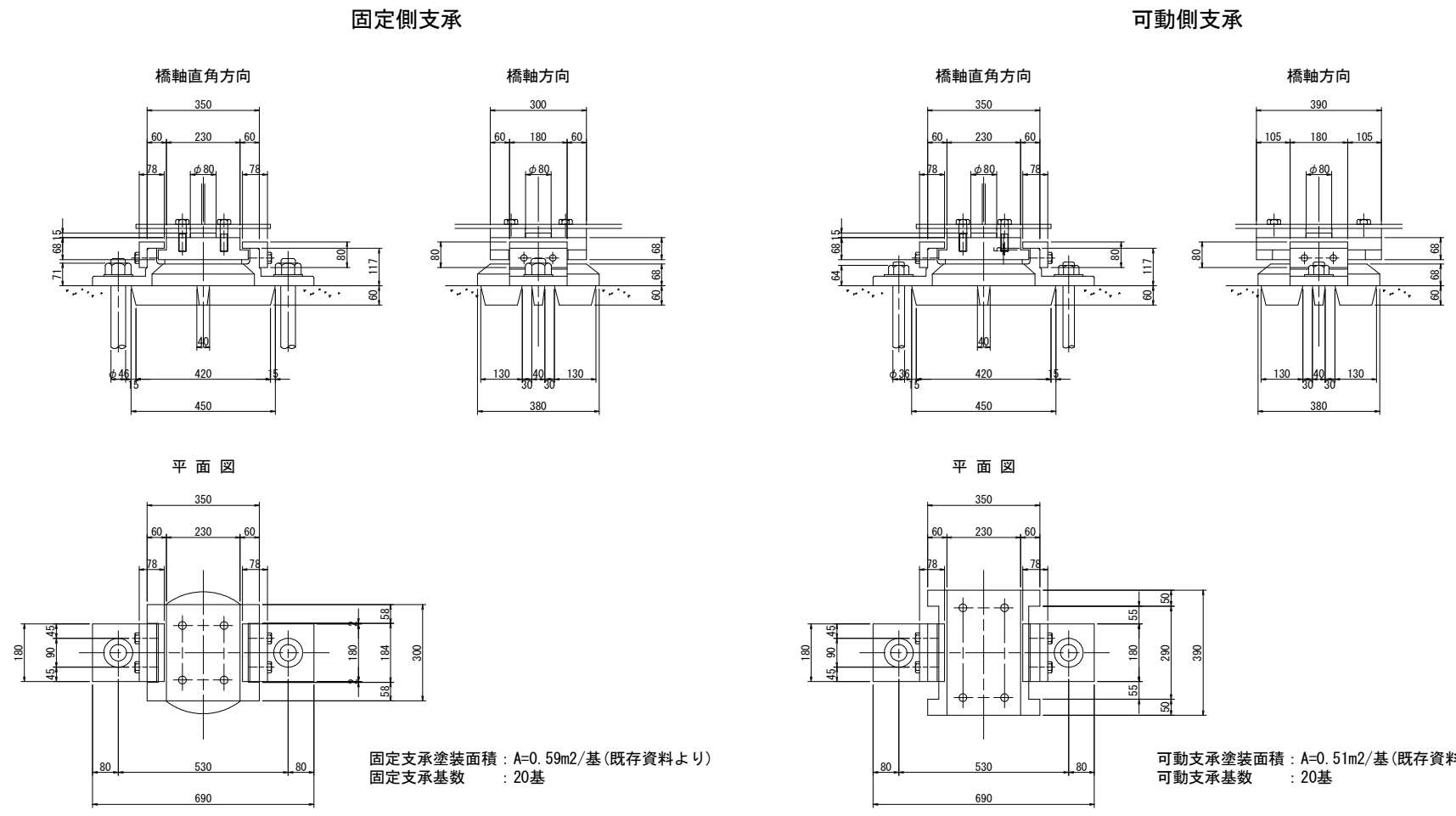
工事名	R2徳土 一宮下中筋線 徳・上八万 橋梁塗装工事(2)		
路線名等	一宮下中筋線		
工事箇所	徳島市上八万町(西光寺橋) (第2分割)		
図面名	下部工補修詳細図(2/3)		
縮尺	-	図面番号	5 / 7
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

下部工補修詳細図 (3/3)

橋脚上台座コンクリート打換工詳細図 S=1:30



支承防錆処理工詳細図 S=1:10



P1橋脚 台座コンクリート打換工寸法表

部位	H1 (m)	H2 (m)
G2支承部	0.050	0.100
G3支承部	0.050	0.150

P3橋脚 台座コンクリート打換工寸法表

部位	H1 (m)	H2 (m)
G2支承部	0.050	0.080
G3支承部	0.050	0.110

P2橋脚 台座コンクリート打換工寸法表

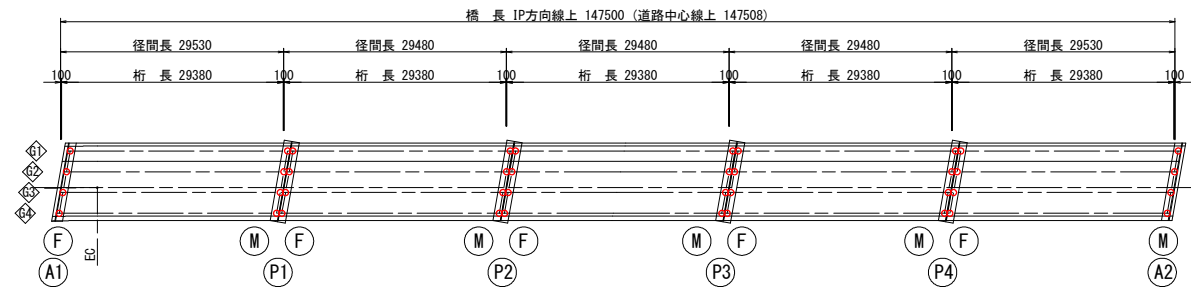
部位	H1 (m)	H2 (m)
G2支承部	0.050	0.100
G3支承部	0.050	0.130

P4橋脚 台座コンクリート打換工寸法表

部位	H1 (m)	H2 (m)
G2支承部	0.050	0.100
G3支承部	0.050	0.120
G4支承部	0.050	0.110

- 注記)
1. 部材寸法は、工事に先立ち再計測及び再確認を行い、工事に反映すること。
 2. 既設台座コンクリート撤去時に、鉄筋が確認された場合は、鉄筋を残し既設台座コンクリートのみを撤去すること。
 3. 上表と現況に差異が確認された場合は、H1<H2となるように調整の上施工のこと。

マーク図 S=1:500



常温亜鉛めっき塗装工法

工程	塗布量 (g/m ²)	実塗布量 (g/m ² , 本/m ²)			塗膜厚 (μm)	
		ハケ	スプレー	エアゾール	ドライ	ウェット
素地調整		2種 湿式塗膜剥離剤使用				
常温亜鉛めっき 1回目	250	300	325	1.5本	40	75
常温亜鉛めっき 2回目	250	300	325	1.5本	40	75
合計	500	600	650	3.0本	80	—

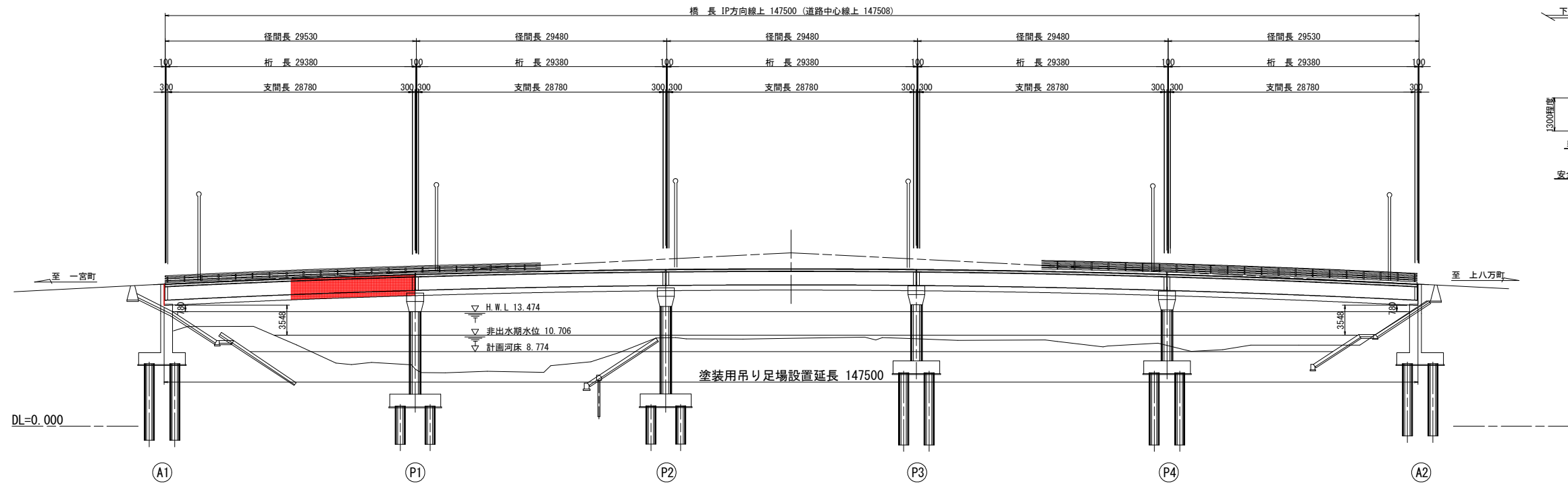
- 注記)
1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 2. 旧塗膜除去は、湿式塗膜剥離剤を使用すること。湿式塗膜剥離剤は、剥離試験を実施し適正を確認すること。
 3. 旧塗膜が湿式塗膜剥離剤で除去しきれない場合は、作業者の安全確保、周辺環境の汚染防止策を確実に講じた上でケレン作業を行うこと。
 4. 塗装前には、付着塩化物量が50mg/m²以下になっていることを確認した後、塗装を行うものとする。
 5. 塗装工事での養生対策は十分行うこと。
 6. 関係機関協議については、担当者に確認を行い適宜対応のこと。

実施設計図面

工事名	R2徳土 一宮下中筋線 徳・上八万 橋梁塗装工事 (2)				
路線名等	一宮下中筋線				
工事箇所	徳島市上八万町 (西光寺橋) (第2分割)				
図面名	下部工補修詳細図 (3/3)				
縮尺	図示	図面番号	6 / 7		
会社名					
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>				

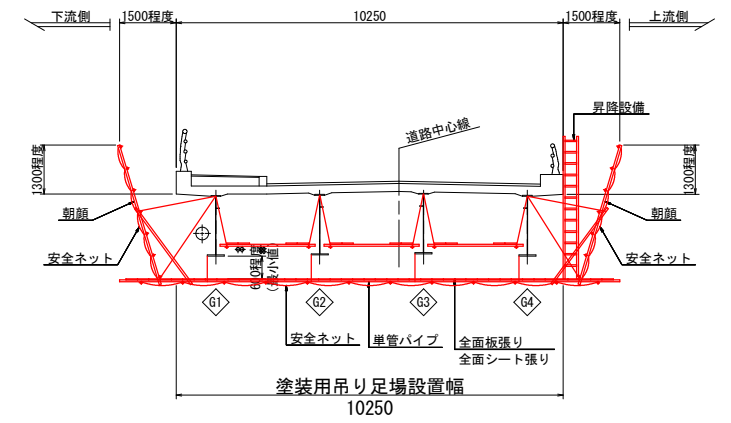
塗装用足場設置計画図(参考図)

側面図 S=1:300

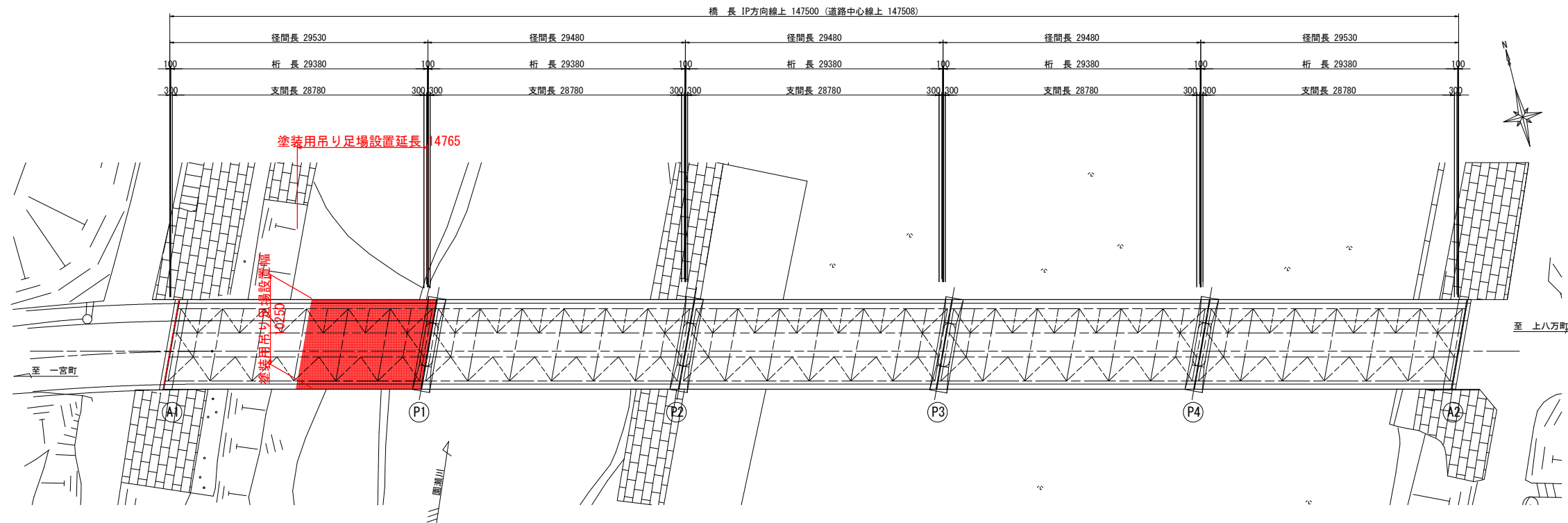


注記
 計画高水位(H.W.L.)は、既存資料より引用した値である。
 非出水期水位は、過去10年の非出水期の実績降雨量を基に算出した値である。

上部工断面図 S=1:100



平面図 S=1:300



注記
 1. 本図面は参考図のため、工事着手に際しては施工者にて検討のこと。
 2. 塗膜剥離の際には、塗膜クズ等が飛散しないように適切な措置を講じること。
 3. 昇降設備の入り口には、第三者が立ち入りできないように安全対策を施すこと。

実施設計図面	
工事名	R2徳土 一宮下中筋線 徳・上八万 橋梁塗装工事(2)
路線名等	一宮下中筋線
工事箇所	徳島市上八万町(西光寺橋) (第2分割)
図面名	塗装用足場設置計画図(参考図)
縮尺	図示 図面番号 7 / 7
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>